



子どもの思いや考えを軸にした授業には子どもを変えられる力がある

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

このような子どもたちには、
どのように接したらいいのでしょうか

そのヒントは

授業にあるかもしれないよ



現在、授業中に席について、みんなと同じように授業を受けることが困難な子どもが増加しつつあるのではないかと、この見方が出てきています。もちろん大多数はこれまで通り学習できているのですが、クラスに数人そういう子がいると、担任はその子への対応に追われ、学級の多くの子への指導が不十分になってしまいます。そうならないようにするために、わたしのような非常勤講師の採用が増えているのではないのでしょうか。

○昔は見られなかった 子どものふるまい

4年生です。授業中でも立ち歩き、友達をちよつとこづいたり、机のものをいたずらしたりして回ります。友達の手を乗せてかがみこんだりもします。友達ももう毎度のことなので、注意したり手を払いのけたりすれば、さ

らに行動がひどくなると分かっていますから、やりたいようにやらせ、災難が通り過ぎるのを待っているかのようです。

次は2年生です。ふだんはいいのですが、何か不満に思うようなことがあると突然大声を上げたり、隣の子の物にさわったり取ったりして迷惑をかけてしまいます。立ち歩きもします。そして幼児語が飛び出します。まるで赤ちゃん返りしてしまっただけのようです。

次は3年生です。授業中でもちよつとイライラしますと立ち歩き、ドアをドンドン蹴ったり、開けたり閉めたりします。

振り返れば、わたしがそうした子どもの行動に初めて出会ったのは、30年前だったように思います。

ある子どもは友達とトラブルを起すと、顔がこわばり、席についていられなくなつて奇声を上げ、テレビの後ろでしゃがみ込んでしまいました。わたしは、「何をやっているの。そんなところにかくれてもみんなに見えていないでしょう」と言いました。

でも、これはその子の気持ちからすれば変な言葉かけだったようです。別にかくれようとしたのではなく、ただただ居場所をそこに求めただけだったのですね。

このような子どもの出現にわたしは、ちよつとした衝撃を受けました。どう

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のブログ」を執筆中。

対応したらいいか。とりあえずの結論は、「様子を見守り待つ」だったように思います。

○子どもの意見を引き出す授業が 子どもの行動を変えていく

さて近年に話題を戻して、あるとき、わたしはそうした子どもへの対処法を学んだような気がしたことがありました。それは、そんな子どもたちも、授業の内容に興味を示せば、けっこういきいきと発言したり活動したりする事例を目にしたからです。それに最適なのが問題解決学習です。

おもしろいことがありました。授業中いつものように立ち歩き、友達にちよっかいをかけていた3年生のAさん。ある瞬間、もぐっていた教卓の下から突然顔を出し、ほかの子と同じように「はい」と手を上げました。

びっくりした担任の先生は、とまどいながらもAさんを指名しました。発言の内容は的を射たもので、担任の先生はそれを喜びながら板書しました。そして、絶賛したのです。それからというものの、Aさんは見違えるくらいしっかりと学習に参加するようになりました。

別な事例です。4年生の4月。Bさんとの出会いは給食の配膳のときでし

た。Bさんは突然、わたしにニヤニヤしながらつばを吐くまねをしました。わたしは急なことでほんとうにつばを吐かれると思ってしまい、Bさんを追いかけてまわりました。Bさんは逃げ足が速く、途中で追うのをあきらめました。そのあと驚いたのは、数人の子がそれぞれバラバラにわたしに、「tooshi先生大変でしたね」「お疲れさまでした」などと声をかけてきたのです。(ああ。学級の中でBさんは浮いた存在なのだな)(みんなに迷惑をかけているのではないかな)私はそう思いました。

わたしはBさんのクラスで社会科専科を仰せつかっていました。初めは右記のようなことがあったからでしょう。社会科の授業と聞くと、Bさんは教室から出ていきました。そして廊下を歩きながら他の教室のドアをたたくて回るなど、いろんな学級に迷惑をかけるので、担任は追いかけるのが常でした。しかし今ではちゃんと着席し、よく挙手もして、発言しています。その内容からは社会科博士と言ってもいいくらい、知識が豊富なのが分かります。Bさんは、もともと社会科が大好きだったのです。今は、自分の持つ社会科の知識を披露できる喜びを感じているようです。

そんなとき思います。こうした子た

ちは能動的で、じっと座って先生や友達の話の話を聞くことが耐えられないのです。それよりは自分を発揮したい、自分の考えを言いたい。そんな思いが強いのです。ですから、子どもの思いや考えを大切に、それを軸に授業を進めると、子どもは「自分の力が発揮できる、大切にされている」と感じ、さらには、自分の考えで授業が進む喜びを覚えるのだと思います。その結果、学級生活の中で落ち着きを増し、友達に迷惑をかけることも減り、みんなの笑顔が増えていくのです。

問題解決学習は、学級経営にもいい効果をもたらしているようです。

